



Handwritten text in a cursive script, likely in a historical or non-Latin alphabet, possibly representing a name or a title. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is somewhat faded and difficult to decipher, but appears to be arranged in several lines. The paper shows signs of wear, including a large tear at the top left and some staining.









月影もよりの庭より一と見ゆ 長春

しらけし白雲中も 夏雨

山<sup>ナカ</sup>信一も、夢人、あゝ、いかに、いかに、 晴

この心持こそしるお徳の真 坊

あまのやまのささけにたづねて 山

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草

あはれにやまの道と清は 草



おとよととも 似せぬ世方のしるしかりて 文障  
 維也の灯もらと晴つては 城夕  
 あくまのいとくせく 御の膝百里 斗直  
 ねしき人 凡くし所くせ 是書  
 桐下より 舟月 浪もたふ 飛山  
 ひとしとく 舟月 浪もたふ 記友

古の讀下巻

友のうけ居にありて 所しつて人  
 おとよととも 舟月 浪もたふ  
 おしとや 舟月 浪もたふ  
 美代の池より 舟月 浪もたふ  
 舟月 浪もたふ  
 舟月 浪もたふ  
 舟月 浪もたふ  
 舟月 浪もたふ  
 舟月 浪もたふ

涼きやと月影のほく海にま

ついで

らやうとそよよとらふらふ

公葉

久くのほくよ葉のほくまて

若山

ふしてとやんと継つたし

梅屋

同様のまやまよとくくあぬ

長曾

そよのそよよと山影りく

起友

金屋のまよとく結のまよとく

城野

まよとくまよとくまよとく

若山

残のまよとくまよとくあやとく

城夕

細のまよとくまよとくまよとく

若山

あやのまよとくまよとくまよとく

久野

神のまよとくまよとくまよとく

若山

清文房具行

船仙行

文鏡

あやのまよとくまよとくまよとく

白舟のまよとくまよとくまよとく

若山



ふんふんふんふんふんふんふん  
義持

下はふんふんふんふんふん  
地蔵

作らふんふんふんふんふん  
善哉

林藤ふんふんふんふんふん  
善哉

ふんふんふんふんふんふん  
八景

ふんふんふんふんふんふん  
龍女

龍女ふんふんふんふんふん  
龍女

善哉ふんふんふんふんふん  
善哉

年の首ふんふんふんふんふん  
室由

東道ふんふんふんふんふん  
松夕

お母ふんふんふんふんふん  
仙兒

ちやちやふんふんふんふん  
柳伴

招行ふんふんふんふんふん  
不先

ふんふんふんふんふんふん  
善哉

お所ふんふんふんふんふん  
善哉

ふんふんふんふんふんふん  
善哉

古きよしと申すはなほさきと申すは  
湖山

清らけりて高きと申すは  
素二

善なる言と申すはなほさきと申すは  
流水

おぼえのしるしと申すは  
虚白

小舟をゆりてゆくはなほさきと申すは  
園石

おぼえのしるしと申すは  
流古

新らけりてなほさきと申すは  
石化

月と橋とをなほさきと申すは  
赤花

まじりてなほさきと申すは  
竹石

あつと申すはなほさきと申すは  
歩月

あつと申すはなほさきと申すは  
難石

あつと申すはなほさきと申すは  
有二

あつと申すはなほさきと申すは  
文星

あつと申すはなほさきと申すは  
可三

あつと申すはなほさきと申すは  
蒼白

あつと申すはなほさきと申すは  
竹仙



松を涼し  
杉を人か

松の涼しを付ひてや松一羽 伝古  
増の涼しや松を付ひてや松 杉  
中を涼しを付ひてや松一羽 湖山  
暖湯の涼しや松を付ひてや松 城夕  
畑を涼しや松を付ひてや松 有仙  
松を涼しや松を付ひてや松 己中  
松を涼しや松を付ひてや松 竹居  
松を涼しや松を付ひてや松 仁児

①  
松の涼しを付ひてや松一羽 伝古  
増の涼しや松を付ひてや松 杉  
中を涼しを付ひてや松一羽 湖山  
暖湯の涼しや松を付ひてや松 城夕  
畑を涼しや松を付ひてや松 有仙  
松を涼しや松を付ひてや松 己中  
松を涼しや松を付ひてや松 竹居  
松を涼しや松を付ひてや松 仁児

日月のまゝかゝるや夕年産 若白

年月と志核のまゝのまゝの 赤二

牛細心くまゝ摘りのやゝ白を 赤白

赤を赤くあゝのたくと 赤月 下道

あゝまゝかゝる北を北を赤る 在江戸 竹麻

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 他田 赤白

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 一七在仁科 赤白

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 大所見

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 仁科故人 赤白

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 友好

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 赤中

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 雁首

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月 竹琴

湖北新田

仁科のまゝとまゝ摘りのまゝの月

まゝくゝるまゝ摘りのまゝの月

あはれなるかきつねの文を  
かきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

五景

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を

あはれなるかきつねの文を







何れも此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

此の世の位にたつておる

あまのつとむる酒を自在の凡雅とす

多幸の信と云ふことなり

江都坊

夕天のちや園と云ふも恨のこゑ

如きうとう梨の世活の樂は 里凡

若くといふくすのさうま 山泉

名録

三輪やあまのつとむる酒を自在の凡雅とす

きりぎりすのさうま 山泉

可きさうまのつとむる酒を自在の凡雅とす

物産くすのさうま 文意

柳やあまのつとむる酒を自在の凡雅とす

若くといふくすのさうま 山泉

谷川やあまのつとむる酒を自在の凡雅とす

山泉やあまのつとむる酒を自在の凡雅とす

山部

きやのまゝなまむなごのてしき、ふし〜

しよのてきまゝのひのまはらとまうくはま〜

まのちやまゝまゝのまゝ〜

知方

庭まの月の音まゝのまはら 江崎

何れ、橋の影まゝのまゝ 志山

ゆゑのまゝのまゝのまゝのまゝ 文雅

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝ 以和

早まのまゝのまゝのまゝのまゝ 上原

庭まのまゝのまゝのまゝのまゝ 了向

庭まのまゝのまゝのまゝのまゝ 里中

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ 七条

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ 高倉

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ 八景

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ 高方

ふと月よりの末にうらむ山をなれ

相寄園水遊ふもねと海月の半壁と

山と山と半折の面影とゆふ

築指

夕暮や山影うらむ水の待力

園羽とくそ家陽あうらね 雲

三解

仁折の猿もほしきふと日さす日影

ふしそふとそゆふ花日のふりへ

あぢふとらね

築指

猿指と猿と丸とふとそきね

鑑別

山と山と半折の面影とゆふ

夕暮や山影うらむ水の待力

園羽とくそ家陽あうらね 雲





さくら花の古瓶の蓋、瓶の口 二葉

舟をよみゆく舟をくちくち 馬車

竹をうららめくさきの園隣 若仙

やのふたせふらふあまのこ 小泉

為別

日おの竹床まをすあまの目北空に  
あけしとまはむの跡のまもあまの  
あけしとまはむの跡のまもあまの  
あけしとまはむの跡のまもあまの  
あけしとまはむの跡のまもあまの

美濃

あけしとまはむの跡のまもあまの

美濃四季物語

名保

北音

この遊人

◎ 都人のあらしむるしり行はるる  
 此社と何ぞよきしり葉山も  
 花に掃くよきしりよきしり  
 此のやまに人にも掃く  
 此のよきしりよきしり  
 此のよきしりよきしり  
 ◎ ありとある山と掃くよきしり  
 東源

山源

孤あ字

そむとふしりよきしり  
 長江や川のよきしりよきしり  
 名伴

大音

◎ 此のよきしりよきしり  
 まりよきしりよきしり  
 ◎ 此のよきしりよきしり  
 竹のよきしりよきしり  
 何と



乃とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも

大坂下  
 乃とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも  
 一とくもよむはく清くも  
 有るもややくも有るも

大坂下門

才はき一門のりそ河石如のき 柳更  
 野やゆ〜はるし 枇杷の玉 已百  
 きのゆきと〜のまゝ一二年 加致  
 権極の人目りゆ〜や柳の葉 全露  
 中好ゆ行やきし〜かたふも善壯結 沽里  
 ぶ〜ゆやねゆ〜ゆの遠ふ 女扇  
 ゆ〜ゆ〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 可致  
 若信やゆ〜ゆゆゆゆゆゆゆ 石干

風やき〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 石室  
 ぼゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 文書  
 ねゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 里石  
 皆ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 机地  
 舞のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 呂夕  
 移書やゆ〜ゆゆゆゆゆゆゆゆ 書由  
 白雲を移ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 南嶺  
 月〜ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 沙度

さきへくちかきむねのまゝに 五又

しらね

ふのふやけのまゝにむねのまゝに 達

いさかひのまゝにむねのまゝに 大柳

ふのまゝにむねのまゝに 九段

いさかひのまゝにむねのまゝに 弘聖

相のまゝにむねのまゝに 権五

七ツやんまゝにむねのまゝに 秋千

ちりたらしく  
むねのまゝに  
むねのまゝに  
むねのまゝに

如法のまゝにむねのまゝに 宇柳

同のまゝにむねのまゝに 雨直

同所

ふのまゝにむねのまゝに 聖彦

ふのまゝにむねのまゝに 夕相

ふのまゝにむねのまゝに 女

行のまゝにむねのまゝに 高梨

同のまゝにむねのまゝに 柳

少知や胡の五所もあつた  
紫のうらまゝのうらまゝのうらまゝ

行住

そふれをたぬる人ぞ陽の道  
乙春

まゝれなるるはれありての  
魯撰

○ 月影のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
野村

そふれ月影のうらまゝのうらまゝ  
孝経

梅折のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
松陰

梅のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
葦陰

草の

所見のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
乙外

所見のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
草狂

○ 梅書のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
文十

仲人のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
右曲

梅屋のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
現心

梅のうらまゝのうらまゝのうらまゝ  
所折

芥子こくや 塚のあやもよ 此のま 杜若  
西のうら ずらひのふさし 竹のし 念光  
とき 物にさるる 心さるる 嵐て  
きりあや 碎るる ちるる 一糸  
らるる 青き こと 破れ 高波  
若年や 雲のふらふら 高波  
風や <sup>強</sup>らるる ちるる 行 雲に  
抱りし のこころ ちるる 難る 白く

よのく ちるる ちるる 馬  
ちるる ちるる 一糸 柳林  
葉く 人し 塚のま ちるる 菊苑  
<sup>ちるる</sup> ちるる ちるる ちるる 萬表  
神戶

ア  
早  
みあや ちるる ちるる ちるる ちるる  
陰のあや ちるる ちるる ちるる ちるる  
ちるる ちるる ちるる ちるる ちるる  
巴文

よつとせむし

己の如く  
其の何と  
松師く  
所支  
市書  
寺東

千須

眠ねや  
能おや  
り世の  
り  
暮れ

山

千須

所中  
穠  
以  
様  
あ

所<sup>レ</sup>もむる程と<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>也  
軌水

○ 白<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
二水

此<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>也

打<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
右<sup>レ</sup>水

行<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
左<sup>レ</sup>水

移<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
右<sup>レ</sup>水

二<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
御<sup>レ</sup>水

乃<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
可<sup>レ</sup>水

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
御<sup>レ</sup>水

○ 水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

部

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ろ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>水<sup>レ</sup>  
乃<sup>レ</sup>水

庭下... 松

... 松

... 松

... 松

... 松

小澤正

川... 松

... 松

政田

... 松

... 松

... 松

... 松

... 松

... 松

... 松



そやういふものかゝるもの  
# 可也

ゆきやういふものかゝるもの  
# 里行

うきうきいふものかゝるもの  
# 如也

牛飼

よきいふものかゝるもの  
師也

十古

◎ 牛やういふものかゝるもの  
如也

豚やういふものかゝるもの  
如也

定家

そやういふものかゝるもの  
都也

雨は高田

あつちいふものかゝるもの  
里也

及

あつちいふものかゝるもの  
如也

三斤

あつちいふものかゝるもの  
如也



高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下

月影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

花影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

竹影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

松影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

柳影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

燈影の如く 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下 高下

中の音にそおける物々ほお月 全 帆後  
 上りておのこも月のお音 高橋 窓文  
 八つおのこも月のお音 大後 向え  
 中しおのこも月のお音 全 可文  
 いづれも身軽なるし 何れ 望仙  
 鳥音や好し 西宮 千本  
 蜂くや扇し 全 古葉  
 摘まも 全 市取

加納

中の音にそおける物々ほお月 全 帆後  
 上りておのこも月のお音 高橋 窓文  
 八つおのこも月のお音 大後 向え  
 中しおのこも月のお音 全 可文  
 いづれも身軽なるし 何れ 望仙  
 鳥音や好し 西宮 千本  
 蜂くや扇し 全 古葉  
 摘まも 全 市取

孝の事もあつたかゝる事なれば 所南

去るくとも申す事なれば 和名

① 月ちの山あふさく水の事なれば 如也

柳をく柳をくく入る事なれば 行路

ふと流るる事なれば 烟巻

水あひや事なれば 山あふ事 卅五

改田

雅程の行路の事なれば 仁坐

小南編

行く事なれば 馬北

田

行く事なれば 桐年

墨野

行く事なれば 成也

① 行く事なれば 右量

行く事なれば 甘藷

たうたはさるゝしんせうのうたをうたふ  
中隠

静かたゞ舞ふくはくさぬ軽衣  
逢衣

浮船合やうらうらと梅の影も  
草仙

出草

その春もさるはなをよひあはれむ  
東江

川と海の日を推くはる月のお  
舟橋

あつらひのうたをいふはなを  
山風

まひなまのうたをいふはなを  
忍草

はるもさる柳の中や月のお  
おこ

りちからさるはなをいふはなを  
草日

さるはなをいふはなをいふはなを  
草日

ちいさく行くはなをいふはなを  
草日

ちいさく行くはなをいふはなを  
朝雨

ちいさく行くはなをいふはなを  
桐葉

ちいさく行くはなをいふはなを  
草日

同所

唐の事ありてはさきさきうらぶ月 早立  
香の口の解さるる音うり花の中 文梨  
又解ねたをかく芥ふれむらうら 物花  
孝の秋や同くころりや羊の秋 下ト  
梅くや女書下も行るる雪 女書  
あまの秋や一帯と 海の音 午仙  
雲は小雲と秋き行や牛婦人 思才  
おむかひさしはれはるる生ひの秋 松若

孝の秋のふしは名とふくや女書也 仙布  
清くをさるる秋はうらむと 大根川 几行  
竹の秋はうらむ秋は 柳の秋 孝之  
人の秋はうらむ秋はさきも 柳の秋 ぬね  
あまの秋はうらむ秋はさきも 小菰の秋 故根

同布

あまの秋はうらむ秋はさきも 孝之  
あまの秋はうらむ秋はさきも 白雲

新しうておきかたしと申され 己産

其後小座よりおきかたしと申され 杜文

月のおきかたしと申され 葉原

辰守やと申され 方羽

先きと申され 宇社

山と申され 社年

水と申され 鶴市